21世紀の国際日本研究を考える

**金田章裕**

**人間文化研究機構機構長‧京都大學名譽教授**

|  |
| --- |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

重層社会論―日本からアジアへ、国際社会へ  
アジア歴史資料センターの経験を踏まえて

**平野健一郎**

**(東京大學名譽教授‧早稻田大學教授‧日本亞洲歷史資料中心長)**

１．アジア歴史資料センターの経験

私は現在、「アジア歴史資料センター」（アジ歴）という日本のデジタル・アーカイヴのセンター長を務めて、３年有余になる。ここに集まられた方々のなかには、ご研究にアジ歴のデータベースをご利用くださっている方もおられると思うが、あらためてアジ歴をご紹介しながら、まずは最近のその経験から考えてきたことをお話したい。

（１）アジ歴の設立目的

（２）アジ歴の特徴

（３）アジ歴の意義と効果

（４）アジ歴の国際性

２．近代国際社会について考えること

（１）国民国家を単位とする国際関係

（２）日本の国際社会への参入

３．重層社会論

（１）固定的な社会構成原理を越える

（２）文化について（国際文化関係史研究の提唱）

（３）複数社会の重層的存在

終わりに

歴史の反省の上に立って、現代の国際関係をよりよく理解し、より平和なアジアと世界に近づくためには、人々の集団を文化的な単位であるとみなし、人々の国際移動と国際文化交流を重視し、国際関係を国際文化関係と考えることが一つの方法ではないであろうか。そうであるとすれば、国際日本研究の意義は、国際台湾研究の意義と同様に、ますます大きいと思う。